

326

321

和路國於凡獨國經濟的活動



始



大正七年二月

露國ニ於ケル獨逸ノ經濟的活動

(調乙第七號)

朝鮮銀行調查局

326-321



目次

發行所寄贈本

一、緒言.....二

二、露國ニ於ケル獨逸人ノ事業經營法.....二

三、露國ニ於ケル獨逸ノ放資.....六

イ、波蘭ニ於ケル獨逸資本.....七

ロ、製油業ト獨逸資本.....九

ハ、露國製鐵業及金屬業界ニ於ケル獨逸資本.....一〇

ニ、化學工業(藥品染料)界ニ於ケル獨逸資本.....一三

ホ、獨逸資本ノ勢力下ニ在ル電氣及電氣工業會社.....一六

ヘ、獨逸勢力下ニアル露國諸企業會社.....二二

ト、公共團體企業ト獨逸資本.....二五

チ、露國銀行界ニ於ケル獨逸資本.....三二

四、露國ノ外國貿易ニ於ケル獨逸ノ地位.....三四



## 露國ニ於ケル獨逸ノ經濟的活動

司事 股野貫之報告

### 一、緒言

露國ハ農業國トシテ天産ニ富ミ其ノ輸出ヲ以テ常ニ國際勘定ノ均衡ヲ保テルニ之ヲ開發スル資本及技術ニ乏シク多クハ外國ヨリ之ヲ仰カサルヘカラス加之露國人ハ元來概シテ計數ニ疎ク性質亦敏活ヲ缺キ商人タルニ適セサル者寧ロ多キヲ以テ其ノ生産スル物資ノ賣買内外通商貿易等ノ經營モ亦猶太人其ノ他外國人ノ手ヲ藉リテ之ヲ行ハサルヘカラス歐米ノ商工業者及資本家ハ夙ニ之ニ着眼シ積年多大ノ注意ヲ拂ヒ露國事物ノ調査研究ヲ重ネ少カラサル犠牲ヲ拂ヒ以テ商工業鑛業等諸般ノ事業ヲ起シ又ハ之ニ參加シ大小幾多ノ放資ヲ行フニ至レリ現ニ佛、白、英ノ諸國ハ主トシテ露國內ノ鐵道、水道、電車、電氣及鑛業等ノ事業ニ參加シ之ニ放資ス

(1) 獨逸國民ハ管ニ前記諸事業ニ對シ直接又ハ間接ニ參加又ハ投資ヲナスノミナラス尙ホ大小幾多ノ諸事業ノ經營ヲナシ之ニ對シテ巨多ノ投資ヲ行ヒ且露國ノ内外貿易ニ從事シ其ノ首位ヲ占ム地盤ノ廣キ根底ノ深キ牢乎トシテ動カスヘカラス其ノ勢力ハ露獨開戰後四年ノ今日ニ至ル迄尙ホ衰滅スルニ至ラス或ハ平和克復後數年ナラスシテ其ノ露國ニ對スル經濟關係上再ヒ舊ノ如ク第一位ニ復スヘキヲ思ハシムルモノ

アリ

露國ニ於ケル獨逸ノ經濟的活動ノ模様ヲ見ルニ吾人ノ大ニ學フヘキ處少シトセス以下項ヲ分チテ其ノ事業經營ノ方法及其ノ放資ニ關シ聊カ叙述セント欲ス

### 一、露國ニ於ケル獨逸人ノ事業經營方法

露國ニ於ケル獨逸人ノ諸事業經營法ハ系統的ニシテ且廣汎ナリ他ノ諸外國人ハ自國生産品ヲ露國ニ輸入供給シ露國生産品ヲ自國ニ輸送スルカ或ハ鑛業、水道、電氣事業其ノ他有利ナル事業ニ放資スルカノ二途ニ止マレトモ獨逸人ハ營ニ前記ノ諸事業ヲ營ムノミナラス第三國ノ生産品ヲ露國ニ輸入スルト同時ニ露國ノ生産品ヲ第三國ニ輸出シ又ハ單ニ有利ナル大事業ニノミ放資スルヲ以テ足レリトセス如何ナル小事業ニモ亦投資ヲ行ヒ専ラ自己資本勢力ノ浸潤ヲ計リ又自國ヨリ露國ニ輸入スルニ困難ナル物品ハ之ヲ露國內ニ於テ製造販賣スルノ手段ヲ執リ露國人ト同シク露國生産品ヲ販賣シ巡回手代(コムミーボヤジエル)ヲ四方ニ放チテ各地ヨリノ注文ヲ取ラシメ露國ノ商習慣タル延取引ニ應シテ六箇月乃至十二箇月甚タシキハ二三年ニ亘ルノ貸買買ヲ行ヒ取引範圍ノ擴張ニ努力ス而シテ露國商人カ自ラ手足ヲ勞スルヲ厭ヒ店頭ニ坐シテ顧客ヲ待ツノ惡風アルニ乘シ之カ爲ニ萬端ノ煩勞手數ヲ便シヤリ物品ノ發送搬入甚タシキハ店頭陳列ニ至ル迄ノ世話ヲナシ露國商人ノ意ヲ迎ヘ其ノ信用ヲ博シ其ノ間大ナル利益ヲ得ツツア

リ露國市場ニ於ケル獨逸人ノ勢力ハ近年著シク増大シ這般ノ戰爭開始當時ニ於テハ露國市場ハ全然獨逸商人ノ左右スル處トナリ戰爭開始ト共ニ商取引關係表面斷絶スルニ至ルヤ露國市場ハ忽チ大打撃ヲ被リ直ニ商品ニ大缺乏ヲ生シ狼狽甚タシカリキ就中藥品、染料、化學工藝品、醫療其他ノ諸機械ノ拂底ニヨリ大ナル困難ヲ感スルニ至リ急遽米國其他歐洲諸邦ヘ注文ヲ發シテ之カ供給ヲ仰キタレトモ未タ充分ナル供給ヲ得ル能ハス或種ノ商品ニ至リテハ之ヲ獨逸以外ニ求ムルコト能ハス今尙缺乏ノ儘ナルモノ多シ而シテ獨逸以外ノ諸邦ヨリ露國ニ對シ現ニ供給スル物品中ニハ獨逸生産品少ナカラサルハ事實ナリ元來獨逸民族ハ露國人ト其ノ性情ヲ異ニシ文明教育ノ程度ヲ異ニシ互ニ相容ルヘカラサル筈ナリ故ニ久シキ以前ハ兎ニ角日露戰後ニ起リタル露國民ノ國民的自覺ト共ニ露國ニ於ケル外國人ノ事業及資本中獨逸人ノ資本及事業ハ先ツ第一ニ露國人ヨリ排斥セラレヘキ筈ナルニ然ラスシテ反ツテ露國ト同盟親善國タル佛國ノ資本及事業カ英國諸國ノ夫レト共ニ一時排斥セラレ獨逸人ノ事業及資本カ少シモ排斥セラレザリシ如キ現象ヲ呈セルハ一ハ獨逸兩國ノ政策上ヨリ起リタル現象ナランモ是レ畢竟獨逸國民ハ地理的關係上常ニ露人ト接觸シ露國民中ニ自己ト同種ノ民族ヲ有スルノミナラス歸化シテ露國臣民トナリ社會ノ上下ニ瀰漫セル自國人ヲ利用シ諸般ノ緣故ヲ以テ官邊公署民間ニ喰ヒ入り各種ノ利便優越權ヲ享受シ年々經ルニ從ヒ益能ク露國ノ事情ニ精通シ露人ヲ解シ其ノ長所及短所ヲ詳ニシ露人ノ國民的自覺其ノ自負心ヲ傷ケスシテ能ク其ノ意ノ存スル所ヲ察シ之ニ迎合シ其ノ弱點ニ付入り周到ナル注意ヲ以テ事業ヲ進メ

タルニ因ルナリ

斯ノ如ク獨逸人ハ深ク露國ニ侵入シ官界財界ノ上下ヲ通シテ其ノ手ノ及ハサル處ナキニ至レリ故ニ其ノ事業經營上都合惡シキ露國法規命令等ハ表面及裏面ヨリ諸種ノ手段ヲ講シテ之ヲ撤去改廢セシメ自己ニ有利ナル新法規命令ヲ發セシメタルノ實例算フルニ違ナシ夫ノ露國都市ニ於ケル電燈裝置規定ノ如キ明カニ電氣附屬品供給者タル獨商人ノ利益ヲ保護スルノ目的ヲ以テ作ラレタル如キ其ノ一例ナリ

故ニ露國市場ニ於ケル獨逸商人ノ勢力ハ近年倍々増大シ這般ノ戰爭開始當時ニアリテハ露國市場ハ全然獨逸商人ノ左右スル所トナリ恰モ一種ノ獨逸商業殖民地タルノ觀アリタリ開戰後四年ノ今日露都及莫斯科ヲ訪問セル吾人ノ如キモ正ニ其ノ然リシ證據ヲ見ルコトヲ得タリ一例セハ戰前獨逸語カ露國ニ普及シ就中商業中心タル莫斯科ニ於ケル商用語カ獨逸語ナルヲ見ルモ亦其ノ然ルヲ知ルナリ

獨逸商人ハ露國ニ對シ斯克根底深ク且廣汎ナル浸蝕ヲナシ自己ノ商業殖民地ノ如キ態度ヲ以テ事業ヲ經營シ得ルヲ以テ其ノ經濟關係最モ密接ナルニ拘ラス他ノ諸外國人ノ如ク經濟的接近及仲介機關タル商業會議所又ハ兩國合辦銀行等ヲ特設シテ之ニ依ルノ必要ナキナリ換言セハ露獨商業會議所又ハ露獨銀行ノ設置ヲ見サルハ蓋シ獨露間ノ經濟關係ハ既ニ之等仲介機關援助機關ノ手ヲ藉ル以上ニ密接トナレルカ故ナリ將來ニ於テモ此ノ種ノ機關ヲ有スルノ必要ナカルヘシ

今回ノ歐洲大戰前露國ニ於ケル獨逸人ノ勢力カ如何ニ大ナリシカヲ知ランカ爲露國ノ外國貿易年鑑ヲ見ルニ現ニ開戰當時獨逸ヨリ露國ニ輸入セラレタル貨物ノ總額ハ露國總輸入額ノ百分ノ五十三ニ相當シ露國ヨリ獨逸ヘ輸出シタル額ハ露國總輸出額ノ百分ノ四十三ニ相當ス此ノ外獨逸人ハ第三國ノ貨物ヲ露國ニ輸入シ且露國生産品ヲ露國內ニ販賣シ露國ヨリ自國及第三國ニ輸出スルト同時ニ露國內ニ於ケル諸般ノ有利事業ニ參加又ハ投資セリ

露國ノ商業中心タル莫斯科ニ於ケル紡績事業ハ獨逸人ノ手中ニ歸シ米國産ノ棉花ハ多ク獨逸「ブレイメン」ヲ經テ露國ニ輸入セラレル千九百十二年ニ於テ露都稅關經由輸入セラレタル米國産ノ棉花八五、五二八「キープ」ノ内獨逸即チ「ブレイメン」、「ハンブルグ」及「リュベク」ヲ經由シタルモノ四〇、一五六「キープ」トス又開戰前露國ニ於ケル銅ノ取引ハ主トシテ獨逸商人ノ手ニ依ツテ行ハレ染料工場ハ悉ク獨逸人ノヲ經營シ茶業ノ如キ初メハ露人自ラ之ヲ經營シタルモ近年續獨逸商人ノ手ニ移リツツアリタリ又建築材料、藥品、化學工藝品、諸機械ノ取引ノ如キ殆ト獨人ノ獨占業トモ謂フヘク千九百十四年度露國內電氣工場資本ノ内約百分ノ八十五ハ獨逸人ノ出資及獨逸人關係ノ出資ニ係レリ極東露領ニ供給セラレタル食鹽、鐵及鋼鐵製品ハ主トシテ獨逸品ニシテ戰前沿黑龍州及沿海州ニ於ケル商業ノ中樞ハ多ク獨逸商人ノ手中ニ掌握セラレタリ夫ノ「クンスト、イ、アリベルス」商會「ヨハン、ランググリチエ」商會等ノ獨逸商人ノ手ニ他東部西比利亞ノ諸地方ニ於ケル商業界ノ覇ヲナセル亦故ナキニアラサルナリ

露國ハ又「ホップ」、豚毛、毛皮、木材、羊毛、麻ノ産地ナルカ此ノ種ノ取引ハ藥品、化學製品類ト共ニ

獨逸商人ノ手ヲ經テ行ハルルモノ頗ル多シ獨逸製造家又ハ商店ハ商品賣買ノ爲毎年露國各地ニ巡回手代(コムミーボヤジエル)ヲ派出シ注文ヲ取ラシメ其ノ代金決済ニ就テハ露國ノ商習慣ニ從ヒ短キハ六箇月長キハ一箇年後拂トシ農具諸器械類ニ至リテハ二年、三年ニ亘ル長期貸賣ニモ應スト云フ

斯カル状態ナルヲ以テ露國經濟界ニ於ケル獨逸人ノ勢力ハ近年著シク増大シ今回ノ戰爭ナカリシモノトスルモ獨逸ハ今後十年間ニ優ニ平和ノ商戰ニ於テ露國市場ヲ占領シ露國ヲシテ自己ノ經濟的殖民地タラシムルニ至ラント云フモ強チ過言ニアラサルヘシ左レハ開戰當時露國ニ於ケル朝野ノ有識者ハ露國ヨリ獨逸人ノ勢力ヲ根本的ニ驅逐スルノ必要ヲ絶叫シ獨逸語不使用同盟、獨逸品不賣買同盟等ヲ組織シ極力之カ絶滅ニ努メ今日ニ及ヘリト雖其ノ目的ヲ達スル事能ハス表面ハ兎ニ角裏面ニ於テハ盛ニ獨逸品ノ輸入賣買行ハレツツアルヲ見ルモ亦其ノ勢力ノ恐ルヘキト其ノ根底ノ深キトニ驚カサルヘカラス

露國ニ放下セラレタル獨逸ノ資本ト其ノ關係事業ニ關シテハ在莫斯科帝國總領事代理ノ報告及露人「ジール」氏著「露國株式企業界ニ於ケル獨逸資本」ニ詳述セラル今右ニ編ヲ基礎トシ其ノ要點ヲ摘録譯述シ之ニ他ヨリ得タル資料ヲ按配シテ以下露國ニ於ケル獨逸ノ放資ニ關シテ叙述スヘシ

### 三、露國ニ於ケル獨逸ノ放資

露國ハ今次ノ戰爭ヲ機トシ從來國內經濟界ニ跋扈セル獨逸勢力ヲ驅逐センカ爲上下舉ツテ苦心努力シツ

ツアリ然レトモ此ノ勢力タル獨逸輸出關係ニ獨特ノ地位ヲ占ムルノミナラス其ノ資本ト經營力トハ直接、間接ノ徑路ニヨリテ各方面ノ企業界ニ侵蝕ヲ逞セルアリ通商上ノ地位モ寧ロ之ニ依リテ益其ノ根底ヲ深フセルモノト謂フヘク之ヲ一掃シ得ルノ決シテ容易ノ業ニアラサルト共ニ露國ノ此ノ業ヲ援ケテ同國トノ經濟的接近ノ實ヲ舉ケンストスルモノ亦大ニ覺悟スル所ナカルヘカラス今茲ニ在巴里露西亞商業會議所理事「アルベールギラン」氏ノ調査ニ基キ露國ノ企業界ニ於ケル獨逸資本勢力ノ一斑ヲ叙述シ以テ當業者ノ考察ニ資セン

#### イ、波蘭ニ於ケル獨逸資本

露國ニ於ケル企業中獨逸資本ノ支配下ニアルモノトシテ先ツ波蘭「ドンブロヴィナ」ノ石炭採掘業ヲ舉クヘシ之ト併立セル「ドネツキイ」ニ於テハ佛蘭西及白耳義ノ資本多キヲ占ムルモ「ドンブロヴィナ」ニ於テハ獨逸ノ資本ニ成レル株式會社ノ經營スル所ナリ波蘭ニ於ケル千九百十三年ノ石炭總產出額五億布度ノ内獨逸ヘノ輸出額一億九千四百四十萬布度即チ產額ノ四割一分五厘ニ達セルニ徴スルモ獨逸カ同地方ノ石炭業ヲ重要視セルノ度ヲ察スルニ足ルヘシ

一方獨逸ハ又波蘭ニ對スル石炭及「コークス」供給國トシテ第一位ニ居リ千九百十年ヨリ同十三年ニ至ル四年間ニ於テ次ノ如キ發達ヲ示セリ

年次	石炭輸入額 <small>千市度</small>	コークス輸入額 <small>千市度</small>
一九一〇年	六六、六〇〇	一〇、八〇〇
一九一一年	一一一、三一〇	一九、五六〇
一九一二年	一三四、四一〇	二一、八六〇
一九一三年	一九四、四〇〇	二五、一〇〇

即チ増加ノ度石炭ニ於テ三倍「コークス」ニ於テ二倍半ニ達セリ

此ノ期間ニ於テ獨逸ニ於ケル石炭業カ非常ノ活躍ヲ見タルト同時ニ其ノ資本ハ續續露國ニ於ケル同企業ニ流入シ波蘭ニ於ケル左記六箇ノ會社ニ於テ殊ニ甚タシキヲ見タリ

會社名	創立時期	最初資本額 <small>千市度</small>
グロヂユスク製油會社	一八九九年	三、五〇〇
ベナルド伯爵探鑛冶金會社	一八八六年	六、九三〇
露西亞鑛業會社	一八九九年	二、一六〇
サツールン探鑛冶金會社	一九〇〇年	五、〇〇〇
ワルシヤワ製油探鑛冶金會社	一八七六年	三、〇〇〇
ソスノヴィツ製油探鑛冶金會社	一八九〇年	九、七五〇

右ノ内「グロヂユスク」會社ハ専ラ獨逸商工銀行(Bank für Handel und Industrie)及「シャーフハウゼン」銀行組合ノ經營スル所ニシテ千九百十三年ニ於ケル同會社ノ石炭產出額四千萬布度ノ多キニ達セリ「サツールン」會社ハ亦殆ト全ク中獨信用銀行(Mitteldeutsche Kredit-Bank)ノ手ニ歸シ同年中ノ石炭產額亦四千萬布度ニ達セリ「ベナルド」伯爵探鑛冶金會社ハ探炭業ノ外煉瓦及麥酒釀造ニ從事スルモノナルカ純粹ノ獨逸會社ナル前記露西亞鑛業會社ニ密接ナル關係ヲ有セリ

「ソスノヴィツ」會社資本ノ一部ハ獨逸國立銀行(Deutsche Bank)ノ占ムル所ニシテ殘部ハ佛蘭西人及瑞西人ノ手ニ存シ年年ノ石炭產出額四千五百萬布度ニ達ス其ノ他獨逸國立銀行ハ「ベトルコフスカヤ」縣「ベリヂンスク」ニ於ケル亞鉛工場、「ポーリンエンバ、ニオカ」ニ於ケル機械工場、「ソスノヴィツ」ニ於ケル亞鉛製造工場、「ワルシヤワ」製油探鑛冶金會社及「ワルシヤワ」製糖會社ニモ多大ノ資本ヲ投下セリ

斯ノ如クニシテ波蘭ニ於ケル主要ナル企業ハ殆ト悉ク獨逸資本ノ侵蝕ヲ受ケ殊ニ同地方ノ石炭市場ハ全ク獨逸人ノ手中ニアリト云フモ過言ニアラス

ロ、製油業ト獨逸資本

獨逸資本ハ又同一ノ方法ヲ以テ石油業ニモ手ヲ張レリ即チ有力ナル製油會社ニ投資スル外其ノ世界市場ニ於ケル販賣ヲ獨占センコトヲ企テ千九百十三年獨逸國立銀行ハ自國政府後援ノ下ニ西歐運輸會社ヲ創設シ英國ノ同種會社ト協定ヲ遂ケテ自國ヲ始メ英國、白耳義、和蘭及瑞西ニ於ケル石油及其ノ副産物ノ



販賣ヲ開始シ新ニ創設セラレタル獨逸石油販賣會社ト協力シテ益其ノ根底ヲ固ムルニ至レリ爾來露國ニ於ケル製油會社ニシテ獨逸國立銀行ニ關係セルモノ次ニ示スカ如シ

獨逸石油取引會社 和蘭獨逸石油會社

瑞西石油探掘會社

商工業會社

白耳義和蘭石油會社

獨逸埃地利石油輸入會社

專ラ露國石油販賣ノタメ創設セラル

其ノ他獨逸諸銀行ノ支配下ニアル石油會社ハ次ノ如シ

會社名	創立時期	資本額
ノーベル兄弟石油會社	一八七九年	三〇、〇〇〇 <small>千圓</small>
ラゴズン製油會社	一八八〇年	一、三〇〇
チエリケン石油會社	一九〇二年	一、〇〇〇
コルキダ石油會社	一九一〇年	一、〇〇〇
カマ商業通運會社	一九一一年	七五〇
エンバ石油會社	一九一二年	六、〇〇〇

ノーベル石油輸入株式會社 一九一三年 五七〇

石油商工會社 一八八三年 一〇、〇〇〇

マズート石油商工會社 一八九三年 一二、〇〇〇

右ノ内「ラズゴン」製油會社以下六會社ハ何レモ「ノーベル」會社ト密接ナル關係ヲ有スルヨリ普通「ノーベル」團ト稱セラレ前記「ノーベル」會社ト同一體ニ見做サル可キモノナリ而シテ同會社カ露國ノ製油業上如何ニ重キヲナセルカハ次ノ數字ヲ一見スルモ明カナルヘシ

年次	石油產額	副產物產額
一九一〇年	六七、三〇〇 <small>千市度</small>	七六、一〇〇 <small>千市度</small>
一九一一年	六六、八〇〇	六五、三〇〇
一九一二年	七〇、五〇〇	六二、九〇〇

ハ、露國製鐵業及金屬業界ニ於ケル獨逸資本

製鐵原料トシテ重要ナル滿俺鐵ノ世界的產地トシテ指ヲ露領高加索ニ屈セサルヘカラス近時世界的製鐵業ノ隆興ニツレ露國ヨリ海外ニ輸出セラレタル滿俺鐵ノ量ハ左表ニ示セルカ如シ

一九一一年	三七、五一一、〇〇〇布度 <small>(四貫三百六十匁約六)</small>
一九一二年	五五、八三四、〇〇〇 <small>(十布度ヲ以テ一噸トス)</small>

一九一三年

六五、二一〇、〇〇〇

右ノ内近時獨逸ニ輸出セラレタルモノ最モ多シトス即チ左表ノ如シ (單位千布度)

輸出先國名	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年
獨逸	一八、二七〇	一八、〇五〇	一九、七二〇	二五、一八〇
英國	八、五五〇	七、六九〇	一一、三三〇	一五、〇九〇
白耳義	五、五〇〇	四、〇二〇	一一、八二〇	一一、六〇
佛國	二、三六〇	九六〇	五、八八〇	八、四一〇
合衆國	一〇	二、五七〇	二、五八〇	三、三七〇
奧國	二、一〇〇	二、一四〇	六〇〇	一、五五〇
伊太利	一、九〇	六〇〇	一	四、五〇

右表ニヨリ千九百十三年ニ於ケル高加索滿鐵總輸出額ノ三割八分六厘一毛ハ獨逸ニ向ヘルモノナルコトヲ知ル又獨逸側ノ統計ニヨレハ高加索滿鐵ノ輸入ハ全輸入額ノ七割五分ニ當レルコトヲ見ルナリ尤モ近年英領印度ヨリ獨逸ニ輸入スル滿鐵ノ量著シク増加シタレトモ露國ヨリ輸入セル量ハ少クトモ六

割五分ヲ下ラサルヘシ

斯ノ如ク高加索滿鐵ハ獨逸製鐵業界ニ取リ重要ノ地位ニ在ルヲ以テ獨逸ハ千九百九年先ツ「ゲルゼンキルヘン」鑛業會社ヲ起シ產地附近ニ其ノ代理店ヲ置キ專ラ高加索滿鐵ノ採集經營ニ當ラシメタル外引續キ同種ノ鑛業會社ヲ起シ高加索地方ニ於ケル小資本ノ鑛業家ヲ買収集中セシメタリ此等獨逸系鐵鑛會社トシテ露國及波蘭ニ活動セル大ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

會社名	創立時期	資本金
チエンストホフスコエ鑛業會社	一八九九年	四〇〇 <small>千圓</small>
ヒロリユジツト會社	一九〇八年	七〇〇
ダリツセンキルク會社	一九〇九年	一〇〇
デイチエル、カイゼル會社	一九一〇年	二八〇
計		一、四八〇

右ノ外獨逸系ニ屬スル會社トシテハ露領沿海州「テチユヘ」ニ亞鉛鑛ヲ有スル「テチユヘ」會社アリ又波蘭ニ於テ主トシテ獨逸資本ヨリ成ル製鐵會社ニハ左記ノ九アリ

會社名	創立時期	資本金
スタラホウキツ鑛業所	一八七五年	二、二五〇 <small>千圓</small>

オストロウエツキ―鑄鐵所	一八八六年	二、〇〇〇
ガン ト ケ 會 社	一八八二年	五、〇〇〇
コロレフスキ―ラウラ會社	一八八九年	三二〇
ミレウキツキ―製鐵所	一八九一年	二、三七〇
プ シ キ ン 會 社	一八九七年	五〇〇
ソスノウキツ鐵管會社	一八九八年	七、五〇〇
クラマトル會社	一八九九年	七、二三〇
ボツゼホフ會社	一八九八年	一、〇〇〇
計		二八、一七〇

又露國ニ於テ主トシテ獨逸資本ヲ以テシ或ハ獨逸人ノ經營ニ屬スル金屬製造會社ノ主ナルモノハ左表ノ如シ

會 社 名	創立時期	資本金
ウエストフアリヤ針金會社	一八八八年	一、七〇〇
露國鐵管製造會社	一八九〇年	六、〇〇〇
コウエンスコエ金屬會社 <small>(舊シミッド兄弟商會)</small>	一八九八年	一、五〇〇

露國バルチック會社 <small>(舊スタール會社)</small>	一八九八年	八〇〇
ポリヂギユツテ 埃國會社	一八九八年	二〇〇
ブリユンチル、シチイデル、ヂトマル會社	一八九九年	一、〇〇〇
リガ金屬製造所「エトナ」	一八九九年	一、〇〇〇
カール、ベトホリド會社	一九〇〇年	五〇〇
シリウス 銑 鐵 會 社	一九〇〇年	五〇〇
チリマンスコエ製鐵會社	一九〇一年	二五〇
獨逸露國鐵業會社	一九〇一年	七、〇〇〇
北 方 鐵 業 會 社	一九〇七年	二、〇〇〇
ウエステン鐵及陶業會社	一九〇七年	三、〇〇〇
ボセリヤ鐵機會社	一九一〇年	七〇〇
露國計量鐵器製造會社	一九一二年	三〇〇
カ ー、ジ ゲ リ 會 社	一九〇三年	三、〇〇〇
計		二九、四五〇

ニ、化學工業(藥品染料)界ニ於ケル獨逸資本

露國ノ化學工業市場ハ獨逸ノ大勢力ノ下ニ存在スルノ状態ニ在リ多少複雑ナル藥品ニシテ殆ト獨逸製ノ印字ヲ有セサルモノナシト云フモ不可ナシ獨逸ノ大製藥所ハ其ノ支店代理店ヲ露國ニ置キ專ラ自己製出ノ藥品染料ノ販賣擴布ニ努ムル外露國ニ於テ製造不可能又ハ不適當ナル藥品ハ之ヲ自國ヨリ輸入シ新藥新發明品ノ如キ專賣特許權ノ獲得其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ擁護シ製造秘密漏洩ヲ恐ルル場合ハ自國人ノミヲ之ニ使用スル等周到ノ注意ヲ以テ着着露國ノ製藥市場ヲ侵蝕シツツアリタリ我日本ニ於テ特產物トセル樟腦、沃度、寒天等ノ如キ藥品原料ハ從來獨逸商ノ手ニヨリテ露國ニ輸入セラレツツアリタリ

露國化學工業界ニ於ケル獨逸ノ勢力斯ノ如ク著大ナルヲ以テ這般歐洲開戦後ニ於ケル露國醫學界製藥界ハ甚タシキ苦境ニ陥リ英米佛白ノ諸邦ニ依リテ缺ヲ補ハントスレトモ或種ノ主要藥品ニ至リテハ今以テ獨逸以外ニ之ヲ求ムルコト能ハサルモノ多シ以テ獨逸製藥業者ノ手カ如何ニ露國ニ伸張セラレタリシカヲ知ルコトヲ得ヘシ今左ニ獨逸カ露國化學工業界ニ放資セル狀況ヲ示サン

年次	事業數	放資額
一八九七年	三	二、三〇〇 <small>千圓</small>
一九〇〇年	六	四、二〇〇
一九〇二年	八	五、九四〇
一九〇三年	八	六、一四〇

右表ニ示セルカ如ク獨逸カ露國化學工業界ニ對シ注入セル資本ハ年ト共ニ増加シ其ノ事業益發展シツツアルヲ見ル而シテ其ノ放資ヲナセル會社中重ナルモノト其ノ各會社ノ放資年別ヲ示セハ左表ノ如シ

會社名	一九〇八年	一九〇九年	一九一〇年	一九一一年	一九一二年	一九一三年
マインツ化學工業會社	一、三三〇 <small>千圓</small>	一、六六〇 <small>千圓</small>	一、六六〇 <small>千圓</small>	一、六六〇 <small>千圓</small>	一、六六〇 <small>千圓</small>	一、六六〇 <small>千圓</small>
其他	八	一〇	一一	一二	一二	一二
總計	八	一〇	一一	一二	一二	一二
放資額	六、一四〇	七、三一〇	八、九一〇	九、七九〇	一一、〇三〇	一一、〇三〇
事業數	三	六	八	八	八	八

化學焚骨會社	一五〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	二六〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
ラドハ會社	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇
ユリウス、リユトゲルス會社	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
アニリン製造會社	一五〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇	二〇〇〇
フアルブウエルケ會社	一五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇	二五〇〇
露國磷酸會社	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇
モロゾフ、クレリ、オットマン會社	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
シエリンク會社	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇	六〇〇
クウエブラホ、プリユンク、デユボスク、レンネル商會	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
フアルマコン會社	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇〇
カールレ商會		六五〇	六五〇	六五〇	六五〇	六五〇
フリドリヒ、バイエル商會					三〇〇〇	三〇〇〇
計	九七九〇	二二〇〇〇	一三〇〇〇	一三六七〇	一七〇〇〇	一八三三〇

以上掲ケタル諸會社ノ背後ニ獨逸銀行 (Deutsche Bank) ヲ始メ幾多ノ大銀行ノ在ルアリテ此等諸會社ノ

本國ニ於ケル資金ノ運轉及社債ノ發行ニ對シ少ナカラサル援助ヲ與ヘ海外發展ニ資スルコトハ吾人ノ輕看過スヘカラサル事實ナリ  
 獨逸銀行ヲ始メ其ノ他ノ大銀行カ千九百〇年ニ於テ之等主ナル獨逸化學工業ノ新社債發行ヲ保證セル高四千六百五十萬麻克ニ達シタリシカ如キ其ノ一例證ナリ今其ノ内譯ヲ示セハ「アニリン」製造會社ニ對スル五百萬麻克「フアルブウエルケ」會社ニ對スル一千一百九十五萬麻克「フリドリヒ、バイエル」商會ニ對スル一千五百萬麻克ナリ

ホ、獨逸資本ノ勢力下ニ在ル電氣及電氣工業會社

會社名	創立時期	資本金
露都一八八六年電燈會社	一八八六年	四〇、〇〇〇 <small>千圓</small>
イマトラ電氣會社	一九一三年	一一、二五〇
「電カ」會社	一八九九年	九、〇〇〇
電氣轉傳會社	一九一三年	六、〇〇〇
オデッサ電氣會社	一九一〇年	三、〇〇〇
南露電氣會社	一九〇二年	六九〇
中央電氣會社	一八九七年	三、二六〇

ラドム市電氣會社	一九〇九年	三〇〇
キエフ電氣會社	一九〇二年	六、〇〇〇
スモレンスク電氣會社	一九〇三年	七八〇
ズゲルジスク電氣會社	一九一〇年	二五〇
ハバロフスク電力會社	一九〇七年	二〇〇
獨逸電氣事業會社	一九〇九年	一〇〇
ワルシャワ市電氣會社	一九〇四年	三、五六〇
計		八四、八九〇

而シテ右電氣電力供給會社ノ外獨逸人ハ露國ニ於ケル電氣工業界ニ左記ノ如キ大會社大商店ヲ有シテ重要ナル參加ヲナス

獨逸系ニ屬スル電氣工業會社

會社名	創立時期	資本金
電氣一般會社	一九〇一年	一二、〇〇〇 <small>千圓</small>
シーメンス、ガリスケ會社	一八九八年	五、六〇〇
シーメンス、シユケルト會社	一九一三年 <small>(シユケルト會社ハ一九〇〇年)</small>	一五、〇〇〇

獨逸カ露國ニ於ケル電氣事業界ニ對シ如何ナル放資ヲナセルヤヲ見ルニ夙ニ千九百三年ヨリ純然タル放資ヲ開始シ開戦前迄ニ其ノ額八千四百二十九萬餘留ニ達セリ其ノ年別ヲ示セハ即チ左表ノ如シ

年次	放資額
一九〇三年	一三、八四〇 <small>千圓</small>
一九〇八年	八、六三〇
一九〇九年	五、一八〇
一九一〇年	一三、三七〇
一九一二年	一〇、〇五〇
一九一三年	一七、二五〇
一九一四年	一五、九七〇
計	八四、二九〇

合同電線製作所	一九〇六年	六、〇〇〇
シーメンス波蘭電氣工業會社	一九一二年	一、〇〇〇
グオルト株式會社	一八九九年	一、〇五〇
計		四三、六五〇

以上諸表ニ示セルカ如ク獨逸人ハ露國電氣界ニ多大ノ放資ヲ行ヒ自己勢力下ニ多數ノ會社商店ヲ有シ相互間ニ「トラスト」又ハ「シンヂケート」ヲ組織シテ或ハ露佛白ノ資本ト結合シ或ハ單獨ニ事業ヲ經營スル等有ニル方法ヲ撰ミテ其ノ地盤ヲ固メ其ノ手ヲ四方ニ擴ケ今ヤ殆ト全波蘭、露都、莫斯科及南露諸地方ノ商工業中心ニ其ノ電力ト自國製ノ電氣附屬品トヲ供給シ着着其ノ事業ノ發展ヲ見ツツアルノ盛況ニ達セシメタリ故ニ露國ニ於ケル電氣事業ニシテ露國人又ハ獨逸人以外ノ外國人經營ニ屬スルモノアレトモ皆殆ト表面名義上ノミニシテ仔細ニ其ノ内面ヲ觀察スレハ多少獨逸分子ヲ混セサルモノ皆無ナリト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ

へ、獨逸勢力下ニアル露國諸企業會社

會社名	創立時期	資本	株主又ハ經營者
ヴァルドホフ、セルロイド製造會社	一八九八年	一五、〇〇〇 <small>千圓</small>	ヴァルドホフ會社
エ、アルプス、キルク製造會社	一八九八年	七五〇	獨逸國立銀行
ワルシヤウ製糖會社	一八七三年	六、五〇〇	同上
ヴァクトーム製油會社	一九〇七年	六〇〇	同上
ジラルドフ製造會社	一八八五年	九、〇〇〇	割引會社
ダイムレル發動機會社	一九一二年	五〇〇	同上

ドレスデン織物會社	一八九九年	一、〇〇〇	割引銀行經營
ベツケル製造會社	一八九五年	一、〇〇〇	獨逸國立銀行
露伊織物會社	一八九八年	一、三〇〇	同上
クリスマン、キルク製造會社	一八九五年	三、〇〇〇	同上
ザウエルツエ紡績會社	一八七八年	三、三八〇	ギンスベルグ兄弟銀行
電氣會社リヤラマイエル會社	一九〇〇年	未詳	
ヴォルチャンスク卵輸出及冷藏庫會社	一九一一年	一〇〇	漢堡聯合銀行
ラフェルム煙草製造會社	一八七〇年	三、五〇〇	ドレスデン銀行
ゲルガルド、ゲイ運輸會社	一九〇一年	三、〇〇〇	割引會社經營
ネヅア製紙會社	一九一〇年	二、〇〇〇	獨逸銀行
オットーダイツ發動機製造會社	一九一三年	一、二〇〇	—
貸機關車運輸機關改善會社	一九〇九年	一、〇〇〇	伯林及維納銀行
テツキスチル織物會社	一八九七年	二、五〇〇	獨逸國立銀行
ブラガ化學工業會社	一九〇一年	六〇〇	漢堡ヴァルブルグ
ゴールドマン建築會社	一九一三年	一、〇〇〇	萬國建築會社

アイケルバウメ運輸會社	一九〇八年	四六〇	一
ザウエルツエ(元ライヒ會社)	一九〇〇年	八〇〇	塊洪國立銀行
會社			
麻及黃麻製造會社	一八九八年	三、二一〇	北獨黃麻及麻紡績會社
サロリン化學品製造會社	一九一〇年	七、〇〇〇	ルベツク、ルイスヴオルフ
チエストヴィツエ製糖會社	一八八二年	一、〇〇〇	獨逸國立銀行

計

二十六個

右會社中「エ、アルプス」及「クリスマン」の兩「キルク」製造會社ハ實際同一理事ニヨリ經營セラレ前者ハ「オデツサ」ニ後者ハ「リガ」ニ本工場ヲ有シ共ニ「ベテログラード」、「モラリ」及「ワルシヤウ」ニ分工場ヲ有セリ「ベルナウ」ニ於ケル「ヴァルトホフ」會社ノ全資本ハ「マンハイム」ニ於ケル同名會社ノ占ムル所ニシテ其ノ社債ハ伯林株式取引所ニ於テ取扱ハレツツアリ

製紙工場ニ於テハ一九一〇年「ネヴァ」製紙會社ノ獨逸人ノ手ニ落チ煙草製造ニ於テハ「ラフェルム」會社ノ獨逸國立銀行ノ勢力下ニ移リタルガ露西亞煙草「トラスト」創設後更ニ轉シテ英露人ノ協同經營トナレリ而シテ開戦前迄ハ一獨逸人其ノ支配人タリシカ開戦ト共ニ逐ハレタリ

以上ノ外獨逸諸銀行ノ關係セル企業トシテハ「ゲルベルトキエルシエ」鐵道會社(資本金二百三十萬留)ヲ舉クヘク最近マテ關係諸銀行代表者ニヨリテ經營セラレ社債ハ總ヘテ獨逸ニ於テ賣出スヲ例トシタリ

「ワルシヤウ」維納鐵道會社モ亦獨逸資本ニ成リタルモノナリシカ千九百十一年露國政府ニ買上ケラレタリ其ノ他「ワルシヤウ」ニ於ケル伯林林業會社「コヴノ」ニ於ケル「ケーニヒスベルクセルロイド」會社等亦獨逸資本關係企業中ニ數フヘシ

ト、公共團體企業ト獨逸資本

轉シテ獨逸資本ノ露國官業其ノ他公共團體ノ企業ニ於ケル地位ヲ察スルニ都市カ企業ノ中途財政上ノ困難ニ遭遇セルニ乘シ巧ニ侵蝕ヲ遂ケタルモノニシテ露佛同盟條約締結ノ際既ニ同資本ニ成レル瓦斯其ノ他ノ點燈會社ノ存在ヲ見タリシカ爾後都市ニ於ケル此ノ種ノ特權ヲ得ルコト困難トナルニ及ヒ間接ノ方法ニ於テ活動ヲ續ケタリ即チ獨逸資本ニ成レル各種ノ企業會社白耳義ニ於テ設立セラレ同國國旗ノ下ニ露國ニ於ケル市街鐵道ノ敷設ニ從事シタリ彼ノ白耳義電氣業會社(千八百九十五年創立)運輸及企業經營會社(千八百九十八年創立)露都市街鐵道及電氣會社(千九百十一年創立)ノ如キ其ノ重ナルモノニシテ是等ノ會社ノ活動ニヨリ成立シタル市街鐵道ヲ表示スレハ次ノ如シ

獨逸資本ヨリ成レル市街鐵道會社表 (單位千留)

名	稱	創立時期	舊資本	新資本	社債
オデツサ	馬車市街鐵道會社	一八八〇年	六、三〇〇	一一、〇〇〇	一七、八六〇



ハリコフ馬車市街鐵道會社	一八八三年	二,六六〇	二,六六〇	六三〇
チフリス馬車市街鐵道會社	一八九五年	一,二五〇		一六,一九〇
ワルシヤウ馬車市街鐵道會社	一八八二年	五,八五〇		
莫斯科馬車市街鐵道會社	一八八五年	五,〇〇〇		
ロストフ馬車市街鐵道會社	一八八六年	一,〇〇〇		
カザン馬車市街鐵道會社	一八九三年	二,一〇〇		
ベロストク馬車市街鐵道會社	一八九五年	一,一五〇		五,八七〇
キシネフ馬車市街鐵道會社	一八九五年	一,五〇〇		八六〇
クルスク市街鐵道會社	一八九五年	三,五〇〇		七六〇
アストラハン鐵道會社	一八九六年	二,五〇〇		五〇
オレヨール市街鐵道會社	一八九六年	二,〇〇〇	一,九六〇	一七六〇
ウイテブスク市街鐵道會社	一八九六年	一,五〇〇	一,一〇〇	九二〇
市街鐵道及電力使用會社	一八九七年	一,五〇〇	一〇,〇〇〇	
エカテリノスラヅ市街鐵道會社	一八九七年	二,〇〇〇	一,六六〇	一,九六〇
タシユケント市街鐵道會社	一八九七年	一,七五〇	三,四〇〇	三,二五〇

レヴエリ市街鐵道會社	一八九八年	一,一〇〇	一,一〇〇	
ウラジカフカス市街鐵道及點燈會社	一九〇〇年	一,六〇〇	一,六〇〇	一,〇〇〇
サラトフ市街鐵道及電燈會社	一九〇五年	一〇,〇〇〇	九,三六〇	八,八八〇
キエフ市街鐵道會社	一九〇五年	一〇,〇〇〇	九,四七〇	一〇,三八〇
リガ市街鐵道會社	一九〇三年	一〇,六六〇	一〇,六六〇	三,一〇〇
シンフエロポリ市街鐵道會社	一九一一年	三,五〇〇	三,五〇〇	

備考 表中新資本ノ缺ケルハ會社現存セサルモノナリ

以上現存ノ諸會社ハ獨逸資本ト關係ノ程度ニ從ヒ次ノ如ク區分スルヲ得ヘシ

一、全然獨逸勢力下ニアルモノ

「オデツサ」、「ベロストク」、「リガ」、「シンフエロポリ」、「エカテリノスラヅ」ニ於ケル市街鐵道會社

二、市街鐵道相互會社其ノ他ノ白獨協同資本「シンヂケイト」ノ支配下ニアルモノ

「クルスク」、「オレヨール」、「サラトフ」、「キエフ」ニ於ケル市街鐵道會社

三、獨逸國立銀行、商業銀行及割引銀行ニ關係ヲ有スルモノ

「レヴエリ」市街鐵道及點燈會社

四、「オイルバイン」獨立財團ヲ主ナル株主トスルモノ

「キシネフ」、「アスツラハン」、「タシユケント」、ニ於ケル市街鐵道會社

五、全然白耳義及佛國ノ資本ニ成レルモノ

「ハリコフ」、「ウイテブスク」、「ウラジカフカス」ニ於ケル市街鐵道會社

右各部類ノ資本及社債ヲ比較スレハ次ノ如シ (單位千留)

部類	企業數	資本額	社債額
第一類	五	三八、九七〇	三三、八八〇
第二類	四	二四、二九〇	二〇、二三〇
第三類	一	一、二〇〇	—
第四類	三	七、〇四〇	五、七七〇
第五類	三	五、四六〇	一、六六〇

即チ露國ニ於ケル現存市街鐵道會社中最モ多ク獨逸資本ニ倚賴セルモノハ第一類ヨリ第三類ニ至ル十個ニシテ此ノ資本總額六千四百四十六萬留社債五千四百一十一萬留ヲ算シ第四類及第五類六個ハ主トシテ佛國及白耳義資本ノ關係セルモノニシテ此ノ資本總額千二百五十萬留社債七百四十三萬留ヲ算スニ過キス

此ノ外前掲運輸及企業經營會社及露國市街鐵道及電氣會社ハ左記諸企業會社ノ經營ヲモ支配シツツアリ

名	稱	創立時期	資本額	社債
リガ市街鐵道	(前表ノモノトハ別箇)	一九〇三年	四、〇〇〇	一、二〇〇
オデツサ電燈會社		一九〇六年	一、二〇〇	—
ベロストツク電燈會社		一九一三年	二、〇〇〇	—
ラドム電氣會社		一九〇九年	三〇〇	—
シンフエロボリ電氣會社		一九一一年	一、三二〇	—

而シテ右運輸及企業會社テフ獨逸資本「シンヂケート」ハ實際獨逸國立銀行「ドレスデン」銀行割引銀行及電氣會社(Allgemeine Elektrizitäts Gesellschaft)等ト同一機關ニヨリ經營セララルモノニシテ前記「オデツサ」馬車市街鐵道會社及同市街電氣會社(資本金二千八百萬法)ヲ支配スルノミナラス露國以外ニ於テ其ノ支配下ニアル市街鐵道及電燈會社數二十四個ノ多キニ達シ巴里ノ中央電氣會社及君士坦堡ノ「コンソルチウム」會社ノ如キ其ノ主ナルモノナリ

本「シンヂケート」ハ自己ノ收益ヨリモ寧ロ獨逸諸銀行ト外國ニ於ケル企業ノ連鎖タルヲ以テ目的トスルモノナリ資本額千五百萬法ナルカ其ノ損益勘定頗ル良好ナルコト次表ニヨリテ明カナルヘシ

獨逸資本「シンヂケート」損益勘定六年比較表 (單位法)

年次	純益	五百法株ニ對スル配當	毎年十月三十日ニ於ケル五百法株ニ對スル市價
一九〇七年	一、九三〇、〇〇〇	三五	七八五
一九〇八年	一、七五〇、〇〇〇	三七	七七九
一九〇九年	二、〇二〇、〇〇〇	四〇	九〇七
一九一〇年	二、三三〇、〇〇〇	四五	九五六
一九一一年	二、六一〇、〇〇〇	五〇	一、〇九五
一九一二年	三、〇一〇、〇〇〇	五五	一、一四〇

又其ノ支配下ニアル「オデツサ」馬車市街鐵道會社及同市電燈會社ノ如キ何レモ好結果ヲ收メ前者ハ千九百七年總收入三百四十六萬法純益百三十二萬法ナリシモ同十二年ニハ總收入六百五十五萬法純益三百三十一萬法ニ達シ後者モ千九百十一年創設翌十二年ニ於テ百二十六萬法ノ總收入ノ中五十一萬法ノ純益ヲ算スルニ至レリ又同市電話會社ハ千九百十年ノ總收入八十五萬法純益四十萬法ナリシモ同十二年ニハ總收入百九萬法純益五十六萬法ヲ算シ「リガ」市街鐵道會社ハ千九百十年ニ於テ總收入四百十二萬法純益二百二十九萬法ナリシモノ同十二年ニハ總收入五百五十八萬法純益三百十五萬法ニ達シ「ラドム」電氣會社ハ創設第二年ニ於テ三十萬留ノ資本ニ對シ五分ノ配當ヲナシ「シンフエロポリ」市街鐵道及電燈會社モ亦略同一ノ結果ヲ齊セリ

相互會社ノ支配下ニアルモノハ「クルスク」、「オリヨル」、「サラトフ」及「キエフ」ニ於ケル市街鐵道會社ナルカ千九百十年ヨリ十二年ニ至ル純益ノ消長左ノ如シ (單位千法)

名稱	一九一〇年	一九一一年	一九一二年
クルスク	一四〇	一九〇	二二〇
オリヨル	一七〇	二二〇	二五〇
サラトフ	一、一六〇	一、四〇〇	一、四八〇
キエフ	一、六七〇	一、九二〇	二、一〇〇

以上獨逸資本ニヨル諸會社ハ何レモ三十年ヨリ四十年ニ互ル權利ヲ享有スルモノニシテ其ノ主ナルモノヲ舉クレハ次ノ如シ

諸會社權利繼續期間表

會社名	權利繼續期間
オデツサ電氣會社	一九〇九年—一九四七年
クルスク市街鐵道會社	一八九五年—一九四四年
カザン第二線市街鐵道會社	一八九八年—一九四二年
ロストフ市街鐵道會社	一八八六年—一九三九年

オリヨル市街鐵道會社 一八九六年—一九三六年  
 リガ市街鐵道會社 一八九六年—一九三六年  
 キエフ市街鐵道會社 一八八九年—一九三四年  
 カザン第一線市街鐵道會社 一八九三年—一九二五年

獨逸人ハ更ニ露國內ノ主要都市ニ於テ瓦斯點燈ノ特權ヲ獲得シ現ニ「カリシユ」、「ペテルゴフ」、「トマシヨフ」、「リバウ」、「クロンシタツト」、「ウイルナ」、「カザン」、「ワルシヤワ」及「ペトログラード」ニ瓦斯製造所ヲ有セリ今其ノ營業會社ヲ資本額及支店所在地ト共ニ表示スレハ次ノ如シ (單位千留)

名	稱	資本額	支店所在地
アウグスブルグ瓦斯製造會社	(一八八五年)	七二〇	カリシユ、ペテルゴフ、トマシヨフ
カールゼン瓦斯製造會社	(一八九一年)	七五〇	リバウ
カザン瓦斯電燈會社	(一九〇〇年)	一、三一〇	カザン
瓦斯電氣營業會社	(一九一〇年)		クロンシタツト、ウイルナ
瓦斯會社	(一八八九年)	一一、二四〇	ワルシヤウ

チ、露國銀行界ニ於ケル獨逸資本

露國銀行界ニ於ケル獨逸資本ノ放下モ他ノ諸外國ノ放資ニ比シ其ノ第一位ニ在ルコト左表ノ示スカ如シ

前ニモ述ヘタルカ如ク露國人ノ概シテ計數ニ疎キ執務ノ敏活ヲ缺ケル等ハ銀行業務ヲ經營シ又ハ其ノ事務ヲ擔當スルニ寧ロ不適當ナリ故ニ表面ハ兎ニ角其ノ實際ニ於テ露國銀行業ノ發達ハ外國資本及外國人ノ指導援助ニ負フ處決シテ少カラス就中獨逸資本及獨逸人ノ参加ハ今次ノ戰爭開始前ニ於ケル露國大銀行中殆ト缺クヘカラサル要素ナリシト稱スルモ敢テ過言ニアラス開戦後ノ今日ニ至ルモ獨逸資本ハ或ル變態形式ノ下ニ諸銀行ニ殘存シ平和克復後再ヒ活躍センコトヲ待チツツアルハ何人モ否定スル能ハサル事實ナリトス

吾人ノ熟知スル西比利亞商業銀行ノ如キ戰前多額ノ獨逸資本ヲ抱擁シ獨逸人ヲ以テ其ノ幹部ヲ編成シ殆ト其ノ實權ハ獨逸人ノ手中ニ掌握セラレタルナリ開戦後其ノ幹部ヲ改造シ其ノ獨逸資本ノ幾分ヲ減シタルトモ尙ホ全ク敵國タル獨逸勢力ヲ除去スル能ハサルカ如キ奇怪ナル狀態ニアリ

其ノ他同行ニ類スル大銀行數多アリ以テ如何ニ獨逸人ノ手カ露國銀行界ニ伸張セラレ居タルカヲ知ルヘキナリ

露國銀行界ニ於ケル外國資本參加表 (單位千留)

銀行名	基本金	露國資本	獨逸資本	佛國資本	英國資本
アゾフ、ドン商業銀行	50,000	15,000	15,000	10,000	—



伊太利	四六,四〇〇	六四,四〇〇	七三,八〇〇	四〇,六〇〇	一一〇
和蘭	一〇八,三〇〇	一八一,一〇〇	一七,四〇〇	九四,七〇〇	
獨逸	二六八,七〇〇	四三四,九〇〇	四五二,六〇〇	二四八,八〇〇	
白耳義	四〇,三〇〇	六二,〇〇〇	六四,七〇〇	四九,二〇〇	
埃及	四四,六〇〇	六三,四〇〇	六五,三〇〇	三八,九〇〇	
西班牙	一八,八〇〇	二九,七〇〇	三四,四〇〇	一四,六〇〇	
芬蘭	八,七〇〇	五,六〇〇	八九〇〇	六,八〇〇	
其他ノ諸邦	三三,五〇〇	三九,四〇〇	二二,六〇〇	一七,八〇〇	一一,〇〇〇
合計	九八一,二〇〇	一,四二二,八〇〇	一,四二〇,九〇〇	八六六,一〇〇	三三三,九〇〇

右表ニ依レハ多年露國商品ノ輸出市場タリシハ獨逸ニシテ千九百四年ヨリ千九百八年ニ至ル五箇年間ノ平均數ニ於テハ總輸出額ノ二割七分四厘ヲ占メ千九百九年ヨリ千九百十三年ニ至ル五箇年間ノ平均數ニ於テハ其ノ三割以上ヲ占ム而モ露國ヨリ和蘭向輸出セララル貨物ノ殆ト全部ハ實際獨逸向輸出品カ和蘭

仕出國名	自一九〇四年平均	自一九〇九年平均	一九一三年	一九一四年	一九一五年
英國	一〇七,六〇〇	一四九,〇〇〇	一七〇,四〇〇	一六七,四〇〇	二七,八〇〇
米國	五五,〇〇〇	七八,五〇〇	七四,二〇〇	七七,〇〇〇	一五,一〇〇
瑞典	七,六〇〇	一〇,四〇〇	一六,一〇〇	一一,一〇〇	五,四一〇〇
佛國	二八,九〇〇	五五,二〇〇	五六,〇〇〇	四二,九〇〇	二八,八〇〇

ヲ經由スルモノニシテ單ニ通過貨物トシテ和蘭ニ仕向ケラルモノナルヲ以テ戰前ニ於ケル露國輸出貨物ノ約半數ハ(全輸出額ノ四割三分三厘ニ當ル)皆獨逸ヘ向ケ輸出セララルモノト見ルヲ得ヘシ第二位ヲ占メタルハ英國ニシテ千九百四年ヨリ千九百八年ニ至ル五箇年間平均數ニ於テハ全輸出額ノ二割三分五厘千九百九年ヨリ千九百十三年ニ至ル平均數ニ於テハ二割一分六厘ヲ占メタリ然ルニ戰爭ノ爲露獨貿易關係斷絶スルト共ニ英國獨逸ニ代リ第一位ヲ占ムルコトナリ千九百十四年ニ於テハ其ノ額實ニ三億一千三百九十萬留ニ達セリ而シテ之ト共ニ芬蘭向輸出額モ劇増ヲナシ千九百十五年ニ於テハ一億三千二百六十萬留ノ多額ニ上リ實ニ戰前ノ二倍半トナレリ(對獨輸出斷絶ト共ニ斯ノ如キ對芬蘭輸出ノ劇増ヲ見タルハ吾人ノ頗ル奇異トスル處ニシテ注目ニ値ス)

露國ノ輸入貿易 (單位千留)

獨逸	支那	和蘭	伊太利	英領印度	丁抹度	諾威	瑞典	奧國	羅馬尼亞	西班牙	土耳其	白耳義	埃及	芬蘭
二七五,九〇〇	一七五,〇〇〇	一三〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	一一〇,〇〇〇	六,一〇〇	七,五〇〇	四,八〇〇	二,五〇〇	一,八〇〇	二,二〇〇	六,四〇〇	七,六〇〇	二,六〇〇	二,八〇〇
四八七,三〇〇	一三,五〇〇	一九,一〇〇	一五,七〇〇	三,四〇〇	八,六〇〇	八,八〇〇	五,七〇〇	三,三〇〇	二,一〇〇	二,三〇〇	一一,一〇〇	七,二〇〇	七,四〇〇	四〇,五〇〇
六四二,八〇〇	一五,三〇〇	二二,四〇〇	一六,七〇〇	三〇,〇〇〇	二二,八〇〇	一〇,〇〇〇	五,二〇〇	三,四七〇〇	一,四〇〇	五,七〇〇	一六,九〇〇	八,六〇〇	五,九〇〇	五,一〇〇〇
四二七,八〇〇	一八,三〇〇	一九,四〇〇	一五,〇〇〇	二四,五〇〇	七,三〇〇	六,七〇〇	三,六〇〇	三,三〇〇	一,九〇〇	三,六〇〇	二,五〇〇	五,五〇〇	七,五〇〇	五,三〇〇
三三,七〇〇	二二,四〇〇	八,三〇〇	八,二〇〇	七,五〇〇	七,二〇〇	五,九〇〇	三,九〇〇	一,四〇〇	一,三〇〇	三,九〇〇	六〇〇	六〇〇	二〇〇	九,一八〇〇

合計	六四五,五〇〇	一,〇〇三,七〇〇	一,二二〇,五〇〇	九三九,一〇〇	六四一,一〇〇
----	---------	-----------	-----------	---------	---------

露國輸出貿易ニ於ケルカ如ク戰前其ノ輸入貿易ニ於テ第一位ヲ占メタリシハ同シク獨逸ナリキ即チ千九百十三年ニ於ケル獨逸ヨリノ輸入額ハ六億四千二百八十萬留ニシテ露國ニ對スル輸入額ノ五割三分ニ當ル且獨逸ハ他ニ比類ヲ見サル急速ナル發展ヲナセルモノニシテ五箇年間ノ平均數ニ於テ前ノ五箇年間ノ平均數ヨリ一箇年二億一千七百七十萬留ノ増加ヲ見タルコトトナル而モ此ノ間他ノ諸外國ヨリ輸入スル額ノ増加ハ漸ク一億四千六百五十萬留ヲ超ヘサルナリ而シテ開戰ト共ニ獨逸ニ代リテ第一位ヲ占メタルハ英國ニシテ千九百十五年ニ於テ英國ヨリ輸入セル額ハ二億二千七百八十萬留ニ上リ千九百十三年ニ於ケル一億七千四十萬留ニ比シ著シキ増加ヲ見タリ第二位ヲ占メタルハ米國ニシテ之亦千九百十三年ニ比シ其ノ金額ニ於テ二倍ノ増加ヲ見タリ芬蘭ヨリノ輸入モ米國ト同シク約二倍ノ増加ヲ見タリ

326

321



終

